

令和2年度 登別市下水道事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

下水道事業は、公共下水道の供用開始から30年が経過し、今後、施設の更新時期を迎える一方、更なる人口減少や少子高齢化社会の進行により水洗化人口は減少すると予測され、引き続き経営状況を注視していく必要があります。

本年度においては、こうした状況を踏まえ、将来に亘って安定的に下水道サービスを提供するため、「下水道事業経営戦略」を見直したほか、施設の効率的な維持管理に資する施設整備事業を重点的に実施するため、「ストックマネジメント計画」による改築実施計画を策定するなど、経営の健全化に向けた取組を行いました。

また、下水道事業の公共的使命を果たすため、汚水の安定的処理やこれによる公共水域の保全、浸水防除など、汚水管渠の改築更新や雨水管渠の新設などを着実に実施しました。

イ 業務状況

年間有収水量は、公共下水道事業で前年度に比べ31,648 m³増加の3,214,647 m³、個別排水処理施設事業で前年度に比べ423 m³増加の17,092 m³となりました。

また、接続戸数（浄化槽設置基数）は、公共下水道事業で前年度に比べ116戸増加の21,105戸、個別排水処理施設事業で前年度に比べ7基増加の95基となりました。

ロ 建設改良事業

管渠建設費においては、常盤町地区の雨水浸水対策として、雨水管渠新設工事を実施したほか、汚水管渠については、既設管のたるみが著しい箇所を改良工事などを行いました。

また、処理場建設費においては、若山浄化センターの電話交換機及び構内電話機の更新を実施したほか、下水道施設全体をより計画的かつ効果的に管理するため、「ストックマネジメント計画」による改築実施計画を策定しました。

ハ 施設の現状

本年度末における施設の現況は、次のとおりです。

- ・ 終末処理場 若山浄化センター
(施設構成) ポンプ棟、オキシレーションディッチ、最終沈澱池、塩素混和池、汚泥処理棟、送風機棟
- ・ ポンプ場 3か所 (若草ポンプ場、幌別ポンプ場、登別ポンプ場)
- ・ 管渠
汚水管 延長 263,715.61m
雨水管 延長 4,357.89m

ニ 財政状況

(収益的収支)

収入は、営業収益7億5,266万9,825円(うち使用料収入6億6,839万4,517円)、営業外収益10億4,396万282円、特別利益30,057円の合計17億9,666万164円となりました。

これに対し支出は、営業費用13億7,573万9,185円、営業外費用2億6,247万4,553円、特別損失7万1,932円の合計16億3,828万5,670円となり、収支差引による当期純利益は1億5,837万4,494円となりました。

(資本的収支)

収入は、企業債収入5億8,870万円、負担金及び分担金収入4,442万430円、補助金収入1億7,826万679円の合計8億1,138万1,109円となりました。

これに対し支出は、建設改良費2億6,886万6,517円、企業債償還金12億1,328万3,760円の合計14億8,215万277円となり、収支差引による不足額は、6億7,076万9,168円となりました。

この不足額につきましては、損益勘定留保資金などで補てんしました。